

県内百貨店・主要小売店1月実績

●百貨店	売上高		客数
岐阜高島屋	▲17.5		▲23.1
●小売店	売上高		客数
	全店	既存店	
パロー	13.8	13.2	▲1.8
Vドラッグ	8.1	2.9	▲3.8
ホームセンターパロー	16.9	14.6	7.1
セリア	15.7	8.7	3.2
ヒマラヤ	▲2.9	▲4.3	▲10.2

※数字は前年同月比の増減率。▲はマイナス。Vドラッグは中部薬品、ひだ薬局、サンファーマシー、アオイ薬局の4社の合計。ホームセンターパローはダイユーエイト、ホームセンターパロー、タイムの3社の合計

県内の百貨店・主要小売店の1月上高実績(速報値)は、売上高でパローグループや100円ショップのセリアが伸長するも、岐阜高島屋とスポーツ用品のヒマラヤが前年割れと二極化した。セリアはマスクなど衛生用品の売り上げが好調を維持。加えて週末の回数増で客数も伸び、アニメのキャラクター関連商品の売れ行きが好調で客単価を押し上げた。パローは生鮮食品売り場の強化と、



1月の百貨店・主要小売店売上高 コロナ禍で二極化

コロナ禍で内食需要の高まりが重なり好調が続く。Vドラッグは衛生関連商品など、ホームセンターパローは雪かき用品や防寒具などが売れた。岐阜高島屋は3密回避で、福袋の販売を予約主体に切り替えたり、セール開始を前倒ししたテナントも出たりして売上高、客数ともに落ち込んだ。緊急事態宣言に伴う時短営業が、中旬から始まったことも響いた。ヒマラヤはコロナ禍で苦戦した初売りが来店客数減、前年実施の在庫処分セールの反動減が売上高減に響いたが、客単価が増え、利益面は落ち込まなかった。